

911.3
V
上

人
卷
上



序詞

多岐國中郡北方の里西蓮寺に

祖師とて一丈一席代の卯塔と建剎とを祀る

竹房が築いそり會社とて凡社とや作ら

まらぬ様々少く推のまふに盛る程とあり

たるとはまゝしはめをせんはゆきまの

榮光のしゝめ自他國の連なる女事と告げ

る捨の料とていふて信の一とあり

きしよあそびの流にうねぬまに静く
歌くハ正門乃依階、よくこの園にま
事とらんを連る平生の流りま
師の師への後まよ四季ちくくの
も向もあそび各々の霊いここの地と
もあれ流りんやとここのまをな
雅のうらむむここの本懐と

信の一字

百韻

古梁坊

好乃道

信の一字

陶里

好乃道

春亭

る

茶静

月七筆

子琴

何心

梅古

法業

文島

好乃道

美の招りきわくひるる所の御 一紙

すれはるるのまにありれ牛ひ子 季山

きふるきふるはせだのむらさきひるる 甫之

仲人のきんむきくらしく 葵江

考加減ハ舞に大事のふふ地 唯之

ころころ心ほるめくきくのき 齋時

字外ハ失格きくた勢田白く 都原

汗まむぬれハ冷たく 家康

此のくろくすに桂乃教白く 塚山坊

神意もはるるや 河原坊 弁太

かー信とくくくくくくく 逸永

まき信かきくくくくく 柳止

年もすくさのむれこく日 友字坊

系名の橋垣ハ軒ハ和東向 西甫

世くくくくくくくくくく 素蘭

悟染のくくくくくく 杉子

筆とおふー下の小枝灯 素文

余所へ引きぬ 定りたる 係先

惣所と産と自惚れ所 懺 如心

平日はとつらじ回植之申 等枝

粟毛あり内新馬醫れまじり 李乙

くくきくしきく 天く代の甚 一

柳枝く如の海へしき 素 花洲

竹明しとやき初願の子寮 有隣

竹を角と 驚し 嘆むらりれま 里乙

通ひききけれき 丸けき 太朗

先生の柳も枝くニ 月 園南島

くくく 喰ひ中肉のあつし 塚た

合きききくは 惚れ素なるお 晒系

きききききき 産れかきき 綿水

近きく 早獲めくは 益福つ 夢翠

上きききききき 帆ぬら 柳の坊

御我嬢ハ下ふる御心お例法 迄功

娘の髪にむくひささき 櫛二

お少くあれと二階のふ月やと 佳行

水くくく温泉乃山の秋 鼎丸

秋よは詠たし一店の月 柳満

夜をれ集新 魏子をほく 里餘

手鞆七四交後りくらに玉の唇 青娥

伊勢の一里志あてり 暮嵐

雨くく雨りり 梅二

ひかたきけしはあしを 女友

季と季もさるるをよふ 朴心

庫裏ハ浮せ乃 一吾

子心知らる 佳櫛

短靴あきさき 友吏

街々の松もほりた星あり 悦至

とまらちり 免隆

空きくく煙のほろけり 腕はる 里雪

昔はほろけり 妻と 更月

右ハ弓たりハ 弦の破けり 爰乐

光り 影 遠く 東 ト、ロキ 直信

うら 多く 心と 蓋と 貝 掩り 磯夕

嫁 洲 海 老の 気 起り 蘭翁

夕月 にかき 魂 といふ 陸の 声 玉露

凡 簫 といふ 音 あり 茂翁

おかしき 心 なるに 塵と ころも 得之

ささき 心 かり 船 向て 行く 釣水

酔い ぬれ 心 知む ちり 引も 廓 あり 知常

水 流る 心 あり 存分 あり 東波

水 流る 心 あり 存分 あり 竹早

おかしき 心 あり 山 乃 胸 中 為 咄

負 難と して けり 心 浪 後 友 友

二 百の 系 代 物 一 法 合 工 十

紫昌ハリシニハシリクハ生後 有五

待物所の細工速ふこと 桂甫

孫えハシシト慶斗に著りて 宇夕

* 年寄れ目も産むおんハ 杜匠

もあつた僕ハ樹のむく月 文柳

新猿ねまのそのもも止む 周和

さあふもいさくみかりハ 波夕

もあふの遠く上との句 一茶

ち〜〜と毎に入られ思ふは 漱石

新物もあつた 鯛ハ 腸ハ 其流

袴着もあつたの和田一茶 季因

森り〜〜病もあつた文り 左歌

名も俺もあつた川の漱石等 松茂

吹〜〜もあつた柳 一茂

う〜〜もあつた病もあつた 検下

又〜〜もあつた 仰ハ 猪的 不由

田樂と傳ふ招体かゝる 琴弓呂

明りとくハシ郎家神棚 巴吏

推橙シイカシのくハシ郎家神棚 樵古

おろの内裡あゝの秋寂 茂葛

御年首の支配為さくあゝはり 呂栄

祿酒れ酌ノロケイ上高音福あゝ 芝海

其ハ酒々 常ふハ 梅のめいんあゝ 風収

引ハ七きハはふまゝの秋為 和調

辛抱ハ命 徳力のかゝる人 喜劇

七差ハ乃義子ハめくハ中島 有慶

仰けりやハくハる道ノホのホ 輕正坊

不易 儀ハ 龍中 ねま 古栄

出席名録

弓に整や 萬年部ノホの法信佛 古榮坊

草木のあゝ 月々あゝ 益ハ雨ら哉 朴志

ふ柳に松乃古ふしふらり梨

本名
松子

約きやさゆり直る霧のうら

公名
有徳

夕きやゆきまに 越れ紅乃橋

巴支

毛不
石音鳴く 雀 タタ 雪 此音

梅斐
柳止

雪まけり 牙 ちりまきれ 旗 出 柳

梅二

凡のふや又まうまう 女机

无一

秋の柳大根ぬき 山 家 家

一唐

雪乃木に 障のうり 移りり

松茂

梅のあに鼻。こゝろもあつた。月由小 波夕

盃のあハちもいぢい。こゝろもあつた。逸 功

はらへ淋し。浮きも桐の一葉船 直信 中村

約物一の軒。こゝろもあつた。秋をい 素文 五世

ほろろこはあつた。淋し。枯色をい 塚た 三世

抱こ子の扱。あつた。こゝろもあつた。美泉 三世

水き月れ。あつた。こゝろもあつた。玉系 非戸

あつた。こゝろもあつた。あつた。あつた。大 詞

あつた。こゝろもあつた。あつた。あつた。呂 業

あつた。こゝろもあつた。あつた。あつた。久 友 五二世

あつた。こゝろもあつた。あつた。あつた。後 乐

あつた。こゝろもあつた。あつた。あつた。里 雪

あつた。こゝろもあつた。あつた。あつた。あつた。 あつた

あつた。こゝろもあつた。あつた。あつた。あつた。 十六

あつた。こゝろもあつた。あつた。あつた。あつた。 あつた

あつた。こゝろもあつた。あつた。あつた。あつた。 あつた

弁の子れ芽やみくおとさり花 風板

梅くもいぬき細くしり胃の耶 和調

夕龍の色ハすけぬき事な了難 古川 板卜

淀乃行ハ情く難くは氷うも 結 鼎九

城あ〜ハ字もあ〜ききく桂 樵古

巢のきれあ〜ありかし小ああり 表之 有慶

むさや雨のなりきき乃版 王後 季因

あのをやあ〜なたけりり弁一の言 西浦

水鏡 晴くや花あけまはあの花見 下室 有慶

あ〜あ〜や一夜すき〜一〜 文因

我杖と遊ふとあ〜しれ〜 大垣 軒と坊

そあ乃軒〜あ〜むや様一ぬ 漆 厚吃

水洞〜かり格〜若〜了難 伏早 友字坊

ふ雲のき〜あ〜き〜や君本愛 友吏

板〜き〜に大津〜となや疑格 ホシシ ケモノ 知常

寒く杖〜き〜あ〜あ〜のき〜ふ 周和

五月也やぬゆーしきるく物一

ね乃者止んるきもや破の山上ノ條 汎川

秋日や水も自あにちきるき 季山

傾けし傘二月され河舟くれ 上ノ條 文子

二秋月に十六秋の秋くしきる 素蘭

風のあもやほしそこの河 棠翁

舟のやもきるきくしきるき色 傑之

小舟もしきるきね入はるきふ 佳行

草花もしきるきくしきるき 上ノ條 素蘭

舟のやもきるきくしきるき 上ノ條 素蘭

曙乃むにさのきく 獨り柳 子守歌

冴たれあやまにほく常念伴 一風

氷き多にうらうら世にあらきり 登り

雛子のきくくハ里あり 高雲 唯之

何ゆくり 椿叫らん 高し山 登り

晴るきり 凡ちを飛く かくれきり 歌隠

那らぬい やまのささる 幸あきり 茂草

あきらむや 川じらむすり 登り 塚登

えはくくぬしすこし 梅のい 竹ふ

ましまし 梅小きく 月日柳 冬夜

揺くのちをけ 凡のまあふ 有立

ふふれ ぬにきき 止む 京寂れ 芝海

高し梅し ねさ かくれ 夕郎か 赤こ

氷き だうら せき ぼく 南 杜匠

咲くく ことり しの 月あな 古栄

梅の 真の しく 家あき ちふ つか 得え

らぬやあーくくの月あは 陶里

名録

美濃

早云〜〜〜夕暮れ霞 了新 結 石童

鳥雲やささふられ〜 酒一瓶 去り 里風

冬下に常ハ踏歩り〜しむか 麦雨

夕日影さほく〜 花野哉 麦二

夕陽や暮ハ暮り〜 芳乃 海 汀芦

卯の心〜月〜あ〜し〜の教 全 麦小

あ〜〜の〜あ〜この意か〜 麦家

卯あむら雪や垣根と後か〜 了竹

あ〜〜〜日〜や若乃茶 改 糸水

ほ〜〜紙〜杉のち〜 女 松江

ほ〜〜のあ〜ふ〜 奇 柞板

むのよあ〜の〜 ル 二蝶

くわい海と浪の波の目数ふ 江戸 梅之

松明と捨の根のふり 以 括

牽と 大正 赤石

おーき 洞 牛

美 凡 二

渡 踏 行

い 芦 堂

横 余 塚

あ 為 路

わ 由 菰

作 十 六 梅之

梅 相 明

孫 赤 白

破 玉 芝

山 了 茶

う 水

月一保り〜 伽藍のあしや 浮城一保も

苔の赤や 舞い〜 寺ふ〜 文一保所

心やうねねの 室やあふのうね 雪一保竹

月一保ゆ〜 春〜 雨乃一保も 元曲一保

ま〜 あり〜 に 桜みら〜 文一保曲一保

緑〜 や〜 の 庭れ 舞い 連一保 久良一保

春 氷 舞い〜 山 物一保 だ一保しの

〜 の 侍 ち けき〜 庭 の 梅一保 舞い一保れ

ま 駒 や 軍 ぐ 丸 ころも 老 の 癖 山一保よ

秋 すすい や 雨 ち〜 遠 月 後 朴 之一保

詠 ね 赤 に 一 本 一 葉 新 以 来 雅一保

里 水 新 舞い〜 五月 晴 六 後一保

一 輪 の 牡丹 小 菟 の 胡 蝶 旭 志一保

新 山 や 鳥 舞い〜 後 山 和 近一保

伴 誓 桑 名

谷川の音よきやをり有

あらしの音よきやをり有 友四

あらしの音よきやをり有 友四

あらしの音よきやをり有 友四

あらしの音よきやをり有 友四

あらしの音よきやをり有 友四

あらしの音よきやをり有 友四

徳の眼より益もいふや五月雨 友四

木乃しーや雲の旗もにひるれ格 自云

月小きくー雲の旗もにひるれ格 友四

風乃しーや雲の旗もにひるれ格 友四

い〜森のさき〜柳の影も亦 呂湘

同新 短多し一折

呂湘

月乃しーや雲の旗もにひるれ格 友四

あらしの音よきやをり有 友四

心根乃... 抄

柳了

系親の... 抄

珍海

信

永七... 抄

古海

永八... 抄

種水

指... 抄

而居

七... 抄

湖宅

二里... 抄

巴登

部... 抄

光之

豊... 抄

光

... 抄

湖六

名録

筆... 抄

子十

梅... 抄

湖六

碑... 抄

湖宅

四... 抄

左亮

谷... 抄

光之

ふ雨やきよのねをきくふれ 戸

日乃きに障の初きやふり 土

ま月や投細うきく 陸水

初雪や同くきく ^{アタ} 蛤浦

きくく一輪きくかきく 而后

同新

八句表

路首

初草やあめき馬乃出の初

名月きくぬくぬく山 乙酉

冬月になき者ほくを謎く 貴物坊

ほきんく新をはれく のは 文廣

投方と戯りはもの實ぬも 路丁

ふかきく のきくきく 二秋

疾起り神と遠く本 花如

櫻もかきぬふ 梨笑

名録

梅の羽 丁は梅雨乃 晴るる 文房

丁梅の句は 是も 用之れ 路丁

美作の句は 雨に 流るる 文彦

雨きては 梅の 文彦 二萩

梅の句は 野の 文彦 梨泉

凡の句は 山に 文彦 花白

梅の句は 雨に 文彦 乙酉

同

ハハ素

新土

梅の句は 雨に 文彦

梅の句は 雨に 文彦 白乙

梅の句は 雨に 文彦 等板

梅の句は 雨に 文彦 藤支

梅の句は 雨に 文彦 法彦

梅の句は 雨に 文彦 加少

世の中を 梅の 雨の 板 了亮

毛芥子に神々々々藪の小家家 呂川

ささげや御新へさしとささげ 毛朝

洛陽

十白表

葛金

子履へふあにほあり松乃と

松乃とあまの行へり 十孝

世へささげのささげのささげ 葛山

きくささげのささげのささげ 呂市

ふ川へささげのささげのささげ 之千太

巳のささげのささげのささげ 六

綿木とささげのささげのささげ 吾人

あつたささげのささげのささげ 雙ふ

月へささげのささげのささげ 土卯

ねへささげのささげのささげ 梅龜

毛朝

踏 ころもれ 砂 崩れ ころもれ 乃 山 土 卯

初 雪 や 冬 補、 直 と 体 の ね 士 子

晴 係 の ら や 牛 の 角 少 し ね ぶ 蝶 乙 千 丈

村 の 匂 せ あり け け け け け け 舞 南

破 六 三 に ち け け け け の 力 け け 舞 六

高 六 六 の ち け け け け 舞 梅 壺

き ぬ あり の ち け け け け 舞 山

襦 馬 ^{ヒメ} 舞 け け け け 舞 人

一 二 輪 け け け け 舞 四 原 市

名 禄

新 波

裕 美 や け け け け け け 舞 舞 狂

苗 代 や 十 日 け 雨 と 晴 け 舞 舞 舞 舞

芭 蕉 舞 け け け け け け 舞 子 風

乃 月 け 舞 け 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞

舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞 舞

五月と義也一考う那 倭書

瘦字のあし一考りるる考う那 李ふ

牛進ぬ一考りるる考う那 文史

草の糸れ一考りるる考う那 今支

社ハ一考りるる考う那 唐辛子 之並

氣れ一考りるる考う那 師系 焉朝

子と一考りるる考う那 小あは 蝶堂

紀評 和分山

各條

名の書一考りるる考う那 江紀

本意や一考りるる考う那 凡圭

物その根一考りるる考う那 海葺

ふ雨も一考りるる考う那 南橋

其心一考りるる考う那 茹石

書名

むの舞勺乃を祀之 筆

名録

鬼	お	や	ゆる	し	あ	た	た	あ	ま	い
吟	こ	も	と	と	り	月	の	明	く	系
鼓	く	の	も	水	新	と	と	り	く	庭
琴	さ	の	酒	の	後	い	や	由	乃	音
月	教	や	成	ん	さ	ら	る	る	新	の
ね	月	の	標	に	さ	し	く	ら	る	山
										二
										朱

同

出合

六句表

事洞

驚乃や 揺る 傾く む 多 梅

夕 初 の 新 乃 じ じ じ じ 彼 事 録

片 端 ぬ 階 下 に 秋 の 風 冷 々 々 岳 川

枝 上 綿 の り じ ち ち ち ち 相 む

結 上 神 幸 じ じ じ じ 一 燈

ね ち み じ じ じ 美 代 繁 糸 斗 糸

名録

秋凡也 松風のむらさき 草花

ゆきや馬の前 正也

ゆきや松のむらさき 如柳

ゆきや松のむらさき 伏島

ゆきや松のむらさき 舟名

ゆきや松のむらさき 傳前 恩

名簿

松 ぬき足袋のふし 直板

松 ぬきや 四のむらさき 不足

松 ぬきや 松のむらさき 柳亭

松 ぬきのふし 松のむらさき 松亭

松 正乃 松のむらさき 市河

松 松のむらさき 巴水

松 松のむらさき 二松

松 松のむらさき 松亭

拙打く飛柳の如くはるか
合浦

同

はるかふらふら月あそび梅の意大分 院意

作向く蓮のほくはるかを了誰そら 雨指

輪福や凡ふを折の夕月垂下山田 柳糸

竿はしり梅の心こころをゆき船佐井田 古井

ふりし草れ雪や花に露をたれ 綿衣

なほやむく雪ほくはるか益中福山 青柳

春と花をみし梅の心こころをゆき船 江流
空あけく草をほくはるか雪乃射紙 夢船

同 園山

新風や春草吹く心馬の粥 麦里

ゆき乃紋月をゆくを夢らふ心 乙枝

瀬のうらに身をほくはるか夕月 吾斗

さくら遠くをゆくはるか夕月 玉秀

春のむくに小鳥のほくはるか月 宇管

小 乃 知 不 知 中 日 世 亦 極 乃 心 樂 而
 佛 乃 之 一 家 之 一 所 裕 車 松
 木 之 葉 也 故 之 也 亦 何 一 葉 素 心
 乃 之 一 葉 之 一 葉 也 亦 何 一 葉 虎 明
 如 之 葉 之 一 葉 也 亦 何 一 葉 為 進
 之 葉 之 一 葉 也 亦 何 一 葉 柳 松
 蓋 亦 一 葉 之 一 葉 也 亦 何 一 葉 控 危
 備 之 一 葉 之 一 葉 也 亦 何 一 葉 素 扇

乃 乃 第 一 也 乃 乃 第 一 也 乃 乃 第 一 也 巴 川
 水 乃 此 葉 亦 一 雪 之 柳 亦 有 雪 真
 曰 貞 松 金 車

松 乃 第 一 一 葉 之 一 葉 也 亦 何 一 葉 及 紅
 今 植 之 柳 之 葉 也 亦 何 一 葉 陰 白
 袂 凡 小 亦 一 葉 之 一 葉 也 亦 何 一 葉 亦 有
 松 風 也 亦 一 葉 之 一 葉 也 亦 何 一 葉 葉 心
 亦 一 葉 之 一 葉 也 亦 何 一 葉 亦 有 少 山

小 晴 家 や ま り 雨 あ り 花 持 没 川

本 狭 し ち ゃ ん ち ゃ ん ち ゃ ん ち ゃ ん 巴 觴

ひ ち ゃ ん と ち ゃ ん ち ゃ ん ち ゃ ん 巴 清

梅 う ら や ち ゃ ん 戸 の 明 女 園 の 月 子 潜

ま の こ の 辻 賑 け あり あり あり 月 貞 柯

中 候 ち ゃ ん ち ゃ ん 小 雨 ち ゃ ん ち ゃ ん の ち ゃ ん ち ゃ ん 洗 竿

ち ゃ ん の 世 乃 ち ゃ ん ち ゃ ん や ち ゃ ん ち ゃ ん ち ゃ ん の 葉 甘 芦 土 声

山 島 や ち ゃ ん ち ゃ ん ち ゃ ん ち ゃ ん ち ゃ ん 比 佐 高 山



